

## 聲明書

大正十四年五月十八日を以て本組合は創立以來加盟せる日本労働總同盟を退會した、其の退會理由を明にし、以て全國に於ける親愛なる兄弟諸君に告ぐ。

昨年十月關東同盟會の退席問題に端を發し、本年三月の神戸に於ける全國大會を以て表面上の問題となれる内紛問題に對して我が組合は嚴正中立の立場を以て全國の労働者が血を以て築ける光輝ある日本労働總同盟の分裂を防がんと微力乍ら今日迄努力した、その間組合の有志は總同盟の爲めに常に力を盡されつゝある信頼すべき人々と調停をなしたるも彼等幹部は總同盟の統制の爲めと稱して調停案を一蹴したるが如きに至ては彼等は唯々總同盟を以て自分等のものと心得現在に於ける地位のみを擁護なし労働運動の本旨を脱せるものと斷じて過言でない、亦去る十六日の中央委員會の決議として二十三組合を除名なしたる如きに至てはその暴や甚だしく彼等は感情や經緯の爲めに日本の労働運動を小黨分立になすも敢て辭せない態度に至ては日本労働運動の破壊者としての責は當然負ふべきものであつて刷新派の聲明書にあるが如く労働運動の獅子身中の蟲と言はるゝも過言でないと斷じます。

今や日本の經濟界は不況に次ぐに不況を以てし労働者の生活漸く急を告げ市井には職を求むる労働者充滿し労働運動も益々多事ならんとするに際し一方資本家階級は労働運動撲滅の爲め間斷なき斷壓とそれに伴ふ反動團體の跳梁跋扈し然して我等の陣營を顧みれば八百萬の労働大衆の中に漸く十五萬の組織労働者あるのみ

この秋に當りて我が國の労働運動の中堅をなし現下最も重大なる責任を以て處さねばならぬ總同盟を二分になし、無産階級の力を減じたる如きに至りては日本労働運動十年の逆轉にして幹部のその罪や斷じて許さるべきものに非ず。

而も彼等幹部の陣營の内最も幹部派の多數を占める大阪より除名の口實を見出さんと去る五月十日開かれたる大阪聯合大會を利用し、先づ關西に於ける幹部派の主動組合である大阪機械労働組合の意見を一致さすべき協議會を開きたる席上同組合餘江支部聯合、その他三支部は事重大なるが故に大會當日は自由討論を主張したるに彼等は暴に凡ゆる壓迫を加へ最後に除名處分になしたる如き彼等幹部は血迷ふた行動をなし又五月八日附發行の總同盟關西機關紙労働者新聞は幹部派に依て濫用され全面刷新派の中傷とザンプを以て埋められタマ／＼聯合大會に於て電氣印刷兩組合の代議員より指摘されて答辯に苦しみ關西同盟會長の許可を得て多額の保證金を遊ばして置くのは勿體なき故大阪聯合會版として出せりと云つたが我等は斯くの如き事あるを憂へたのだ、刷新派にしろ、幹部派にしろ内紛問題に對して我々は軍用金を提供する事を好まない、故に我が組合に於ては今回の内紛問題解決は一切尊き會費は納入せざる事に決めたのであつて十日に開かれたる大阪聯合大會に於ても二月以降の會費を納入せねば今日の大會に於て失格するから納入しては如何と幹部より勸告を受けたが我等は本日の大會に於て兩組合の除名其他、それに關聯した事項を本大會で提出せねば只今でも納入する、けれども數を待み飽迄これを固持するならば我が組合に於ては絶對納入せず、と言明せり、資格審査の會に於ても我が組合の代議員はその事を主張したが資格を失ひ大會席上改めてその理由を釋明して退場した、彼等幹部は當日與黨より足並みの亂れるを懼れて記名投票を以つて除名決議をした、我等は再度明言する、兄弟カキにセメグの舉に對して、その一方に爆彈を送るの愚を避ける、一般會員の尊き會費は眞の労働運動の爲めにのみ使用さるべきものである、彼等は豫定の行動に依つて電氣、印刷兩組合を除名した、我等は彼等幹部の惡辣な態度と陰險な術策に今更ら驚かざるを得ない、我が組合は總同盟加盟以來滿四ヶ年間、多少幹部の態度にアキ足らざるを以てその間絶えず刷新の爲めに叫んで來たが、今日に於ては已に病コーナーに入りて施すの術を知らず、茲に至りては我々は萬止む、依而脱退す

今後我等は日本の労働運動の現狀に鑑み將來を慮り我が國労働運動の健全なる發達と全國的總聯合促進に微力を盡くさむ爲め此の際信すべき兄弟と提携なし我等の進路に邁進せん事を聲明する。

大正十四年五月十八日

### 大阪造船労働組合